

岩手医大.福島医大.広島大

3月11日は、盛岡で「日本災害医学会」。そして18日は、福島県立医科大学で「後藤新平胸像除幕式」、広島大医学部で「医史学研究会」、当館で「加藤登紀子さんを迎えてのTV生放送」とてんてこまいの一日となりました。

【3月11日(土)第28回日本災害医学会総会・学術集会】

あの東日本大震災から12年。今年は被災地である岩手で、3月9日(木)から11日(土)までの期間、100を超えるセッションに、2,000名以上の参加者を得て開催されました。事務局は岩手医科大学。会場は、盛岡のマリオスとアイーナ。

最終日の11日に、「特別講演6」「医師であり官僚・政治家でもあった後藤新平から学ぶ～帰還兵検疫や関東大震災復興の偉業～」と題してセッションが用意され、お話をする機会をいただきました。座長は、第11回後藤新平賞を受賞された東京曳舟病院の山本保博先生。何とも有難い時間を過ごすことができました。

終了後、山本先生と事務局長で大車輪の仕事をなさった岩手医科大学の藤原弘之先生と写真を撮らせていただきました。



【3月18日(土)】第6回広島医史学研究会・岡山医学史研究会合同学術集会

広島大学医学部基礎講義棟第1講義室で行われた学術集会で、当館の佐々木菖子学芸調査員が、「日清戦争の広島におけるコレラを中心とする伝染病の流行とその対策」という共通論題の中の3人の登壇者となり、「日清戦争帰還兵検疫事業における後藤新平の役割」についてお話をしました。



「日清戦争の広島におけるコレラを中心とする伝染病の流行とその対策」という共通論題の中の3人の登壇者となり、「日清戦争帰還兵検疫事業における後藤新平の役割」についてお話をしました。



【3月18日(土)】福島県近代医学教育150年顕彰記念モニュメント(後藤新平伯胸像)除幕式

近代医学教育150年を記念して設けられた、「特に優秀で将来が囑望される人」に贈られる「後藤新平奨励賞」に続き、この日除幕された後藤新平胸像の設置は、福島医大が描く人材育成プロジェクトの一環です。この大切な除幕式にお招きを受けました。この日は、いきなりの吹雪。「雪でお祝いをしてきている」との学長さんの粋なお言葉。大きな拍手の中で、これまで目にしたことのないようなリアルな銅像が姿を見せ、お披露目が行われました。



【3月18日(土)】加藤登紀子さん来館:岩手めんこいテレビ生放送

この日午後からZホールでコンサートが予定されており、午前中に来館されました。加藤さんの父・幸四郎さんは、新平が創設した日露協会学校(ハルピン学院)に入学しています。入学式の壮行式で、晩年の新平と対面。幸四郎さんは後に南満州鉄道などに勤務。家族が満州滞在時、加藤さんが誕生。『新平さんがいなかったら、私も生まれていなかったかもしれない』と語りました。哈爾濱学院の同窓会誌の中に、19歳のお父さんを初めて目にした加藤さん。『胸がどきどきした』とのこと。後半は、旧宅を訪問し、縁側で1曲披露してくださいました。

